

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	五井野 龍了 (ごいの たつあき)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学研究科 医療人類学研究室
発表年月 または事業開催年月	2022年 6月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第63回日本心身医学学会総会ならびに学術講演会 千葉県 幕張メッセ
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	五井野龍了, 金智慧, 常斤怡, 藤田真依子, 小池智大, 遠藤凌佑, 高村柚奈, 辻内琢也
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	被災地における臨床宗教師の役割
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>発表の概要</p> <p>東日本大震災被災地にて行われたケアにおいて、宗教者が果たした役割について調査を行なった。以下、学会に提出した抄録より引用</p> <p>【目的】東日本大震災の被災地において行われた宗教者によるケアや、緩和ケア病棟における臨床宗教師の活動について調査することで、宗教的ケアの意義や心理的ケアとの差異、被災地における臨床宗教師の役割を明らかにする。【方法】被災地において行われた宗教者によるケア活動に関して事例研究を行うと共に、宗教的ケアに関わる3名の宗教者にインタビュー調査を実施。録音した会話の音声データを逐語化し、比較と考察を行なった。【結果】宗教者によるケアは、支援対象者が持つ信仰や無意識下の宗教的観念に働きかけることで、対象者の「意味や価値」に対する認識の揺らぎに対してケアを行うことができる。また、災害によって身近な人を亡くした被災者が語る喪失や死、霊についての語りに対して、宗教的な知識や自身の宗教観に基づいて対話を行い、宗教的儀礼でグリーフワークを促すことができる。【考察】被災地において宗教者がケアを行う意義は、被災者の周囲で起こった死や喪失に対して、自身の宗教観をもって向き合い寄り添うことができるという点である。被災者の喪失に対して死生観や宗教的観念から向き合っていくという点において、心理的ケアとは異なる働きを求められていると考察することができる。故に被災地における臨床宗教師の役割は、宗教的観念への働きかけによるグリーフケアや、喪失を経験した被災者への寄り添いと考えることができる。</p> <p>成果</p> <p>心理士や医療者が多く集まる学会において、宗教者や宗教という医療や心理学とは異なった視点からのアプローチ方法を提示した。またディスカッションにおいて、宗教の公共性や布教活動に関する筆問をいただき、議論することで学びを深めることができた。</p>	

※無断転載禁止